

考察

本市における年齢別人員構成と組織の持続可能性への懸念について

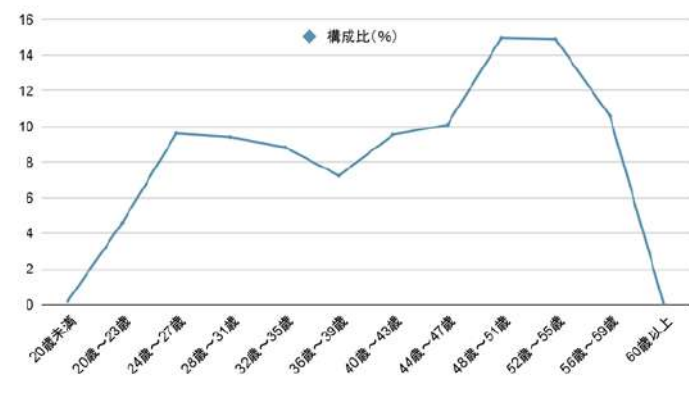
太田市職員、50歳台以上が4割 この10年の人員計画が未来の太田市を占う

4月30日、人事課より令和6年度版の『太田市の給与・定員管理等の公表について』が公表された。同資料では本市職員の給与・人員についての状況が公表されているが、とりわけ目を引いた内容として、p.11「(2)年齢別職員構成の状況(5年4月1日現在)」がある。同項では職員年齢別在籍状況がグラフ状に記載されており(右図を参照)、職員に占める年齢構成では主に50～60代の職員が最も多いことが読み取れる。対して30歳中頃～40歳中頃の職員数が極端に少ないことが見て取れ、年齢ごとの職員数が一定でない“いびつな人員配置”となっている。

類似した事態は国家公務員でも確認されている。内閣委員会調査室(2023)の報告によれば、公務員の年齢別人員構成の変化は、人事院『平成27年度年次報告書』において問題提起がなされ、2023年8月の「公務員人事管理に関する報告」では、実務の中核を担うことが期待される30歳台～40歳台半ばまでの職員数が大きく減少しているとした上で、「早急に対応しなければ、公務組織の持続可能性に対する懸念が増大するおそれがある」としている。本市も同事態に直面し、組織の持続可能性に影を落とす事態となっている。

今後10年で起こりうる事態として「職員の大量退職による人員不足」が挙げられる。右図からも明らかなように、現在、職員の4割が50歳台以上であることから、再任用や定年延長で一部は留まるものの、10年後には職員数から除算されることが想定されるが、近年の売り手市場の影響を受けて申込

年齢別職員構成の状況



者数は頭打ちになることが見込まれる。そもそも若手職員が抜けたベテラン職員と同等の職責を担うことは難しい。

これらの状況を鑑み、「この10年の人員計画」をいかに押し進めるかが組織の持続性を占うことは想像に難くない。新規採用者数を増やすにしても新卒者を採用し育成するには相当な時間とコストを要する。即戦力となる経験と専門性を持った民間企業等経験者を誘致することが不可欠となるが、これを実現するためには採用、育成、給与等の在り方について一体的な取組を推進していく必要がある。

本件は組合員全員に認識して頂きたい懸案である。太田市職労ではこれらの問題の解決に向けて、人材配置の動向を注視するとともに、情報発信を行ってまいりたい。

【参考】内閣委員会調査室(2023)『年齢別人員構成等を踏まえた公務組織への人材誘致 - 民間人材の活用と給与水準を中心に -』
人事院(2023)『公務員人事管理に関する報告』,別紙第一

開催報告

[バレー]群馬県大会3連覇! 本夏の関東大会進出決める

8月開催!!



▲群馬県大会3連覇!表彰後、全員集合

6月8日(土)、前橋市「アルソック群馬アリーナサブアリーナ」にて自治体職員等スポーツ大会(女子バレーボール)が開催され、太田市職労(太田市役所バレーボール部)は高崎市職労を破り優勝。前回大会に引き続いて3連覇を果たし、8月に群馬県で行われる関東大会への進出を決めた。スーパーシードによるトーナメント戦のため、初戦が決勝戦であった本大会であったが、予選から勝ち上がり3連戦となった高崎相手に危なげもなく2セットを先取り、ペースを握らせることなく優勝を勝ち取った。最優秀選手賞には金子夏生([行管]スポーツ振興課)、優秀選手賞は山賀沙裕美(人事課)がそれぞれ受賞した。

関東大会は8月1日(木)～2日(金)、同じく「アルソック群馬アリーナ」で開催される。太田市職労は準優勝の高崎市職労とともに出場予定。皆で応援に行きましょう!

【野球】太田市職労、一步及ばず 桐生市に惜敗



▲桐生市を攻略することは叶わなかった

5月24日（金）、高崎市城南球場で開催された第46回全日本自治体職員等スポーツ選手権大会の準決勝で、太田市職労（太田市役所軟式野球部）は桐生市労連に0対1で惜敗した。

投手戦が展開し、先発の新人投手・竹内慎（医療年金課）は7回まで無失点と好投。その後、ベテランの宮下淳（スポーツ振興課）に継投し、無失点で桐生市の猛攻をしのいだが、攻撃面では振るわず、0対0のまま9回を終了。

タイブレークに入った10回、無死一、二塁で先攻となった太田市職労だったが、あと一步及ばず得点できず。一方、桐生市労連は犠打で一死二、三塁とし、犠牲フライでサヨナラ勝ちを収めた。新人投手の好投とベテラン継投も一步及ばず、悔しい結果となった。



— 今後の予定 —

- 6月28日～7月31日【自治労】セット共済継続募集
- 7月10日【自治労】第4回共済推進委員会
- 7月12日【市職労】第10回執行委員会
- 7月31日～8月2日【自治労】関東甲地区大会女子バレーボール大会@アルソック群馬アリーナ

2024年度セット共済継続加入推進集会について



▲集会の様子。前半は情報共有と講演、後半は分科会が行われた

6月7日（金）、自治労群馬県本部主催による「2024年度セット共済継続加入推進集会」が渋川市ホテル木暮（伊香保町伊香保135番地）で開催された。当日は執行部より小林委員長ほか3名が出席した。

集会の前半は県本部による共済の加入状況の共有が行われた。そのほか、多くの組合員が加入する団体生命共済の掛金が6月より改定されることや、11月よりマイカー共済の団体割引率が減少改定(32.5%→30.0%)することなど、主要事項が説明された。同じく前半のファイナンシャルプランナーによる講義では、公務員を取り巻く社会保険制度と自治労共済の制度と特徴をおさらいしつつ、その活用方法についてレクチャーが行われた。

後半は分科会が実施され、各単組ごとに共済推進の状況の報告と若年層職員加入促進について意見交換がワークショップ形式で行われ、現在の課題を踏まえて今後の対応策を議論した。

編集後記



6月初旬、上毛カルタ「水上、谷川 スキーと登山」で名高い谷川岳に登ってきました。頂上からの眺望はまさに絶景！特に県境に連なる山々の迫力ある稜線や、ヘリコプターによる山小屋への荷下ろしなど、普段は見る事ができない光景を目の当たりにしました。6月だというのに頂上付近にはまだ雪が残っていたことには驚き、まだまだ知らないことがたくさんあると感じるとともに、群馬の魅力を再発見することができました。

立憲民主党
The Constitutional Democratic Party of Japan
参議院議員(自治労組織内議員)

岸まきこ

自治労の政策要求を
実現しよう！

ともに 声を力に、
一歩前へ



岸まきこ 公式サイト
kishimakiko.com/
岸まきこ 検索

自治労は、第27回参議院選挙の全国比例区に「岸まきこ」現参議院議員の擁立を決定しました。

岸まきこ (岸真紀子) プロフィール
1976年北海道岩見沢市(旧栗沢町)生まれ。94年旧栗沢町役場入職(現岩見沢市)。2013年から自治労中央執行委員。19年第25回参院選(全国比例区)で初当選。現職に至る。